

特別栽培米の生産拡大に向けた 生育・品質の安定化 (農林センター)

全窒素施肥量に対する速効性窒素の割合が20~40%の有機入り緩効性肥料を施用すると、生育期間を通じて緩やかな肥効が得られるので、生育初期の過剰分げつを抑制するとともに、イネの活力が高く維持され生育・品質が安定する。

代かき2回と成分数の少ない除草剤(以下、「少成分除草剤」という。)を組み合わせることで高い除草効果が得られる。

◆**緩効性肥料の速効性窒素割合が20~40%で生育・品質安定**

◆**代かき2回+少成分除草剤で高い除草効果**

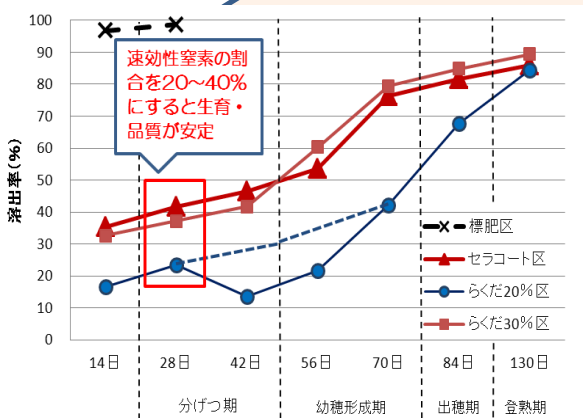
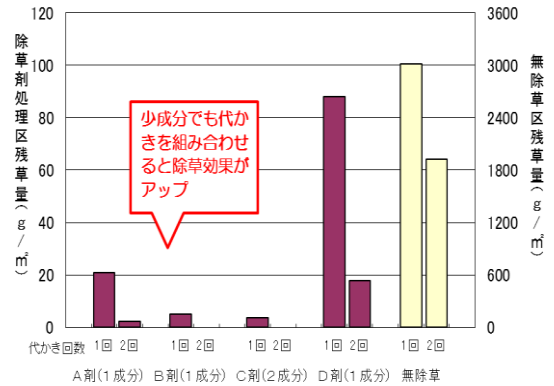


図 肥料別窒素累積溶出率(2010年、埋設法)
表 収量・品質調査結果(2010年)

	精玄米重		良質粒率	食味値
	kg/10a	同左対標準差		
標肥区	483	-	69.8	71.7
セラコート区	502	19	72.3	71.8
らくだ20%区	566	83	76.9	73.1
らくだ30%区	553	70	74.1	71.1

注: セラコート: 速効性9%, 緩効性40%, 有機態窒素51%
らくだ20%: 速効性20%, 緩効性80%
らくだ30%: 速効性30%, 緩効性70%



代かきの1回目は移植20日前、2回目は移植3日前に実施

農薬と化学肥料を
慣行栽培から半減

要件クリア

特栽米

調査した有機入り緩効性肥料の肥効パターンが水稻の生育・品質に及ぼす影響と、管理作業と少成分除草剤を組み合わせた除草法を特別栽培米推進資料として作成する。

- ・ 特栽米生産による減収 (△40kg/10a) が解消します。
→生産量280トン増加 (特栽米取組面積: 700ha × 40kg/10a)
- ・ 化学農薬使用成分回数が低減し、特栽米の要件がクリアできます。
→農家の不安を解消することにより取組増加
- ・ 安心・安全でおいしい京都米を府民に提供できます。